

入江長八 (1815-1889)



入江長八は、松崎村に生まれ、10代で江戸に出たのち、狩野派の絵を学びながら彫塑技術を習得し、「鍍絵」という新しい分野の技法を確立しました。

漆喰と鍍を駆使し、壁画や塑像、塗額などの優れた作品を制作し、鍍絵を芸術の域に昇華させたことで、名工「伊豆の長八」としてその名は、広く知れ渡ることになりました。

長八の作品は、伊豆の長八美術館や長八記念館(浄感寺)、重要文化財岩科学学校などに多く残され、展示公開されています。

※漆喰は、消石灰に海藻のり(ツノマタ)やスサ(麻)などを混ぜて練ったものです。

鍍絵



左官職人が、民家や土蔵の壁などに鍍を使って漆喰をレリーフ状に盛り上げて描いた絵で、漆喰細工、塀細工、石灰絵などともいわれました。

鍍絵は、左官職人が施主に対する感謝の気持ちを表すためにお礼として、雲、龍、獅子、牡丹、虎、鶴、亀、竹、家紋などを題材として描いたもので、「火伏せ」「家内安全」「商売繁盛」「不老長寿」「子孫繁栄」などの願いが込められています。

松崎町では、長八の功績を称えとともに鍍絵の魅力を全国に発信するため2000年から「全国漆喰鍍絵コンクール」を開催しています。

なまこ壁



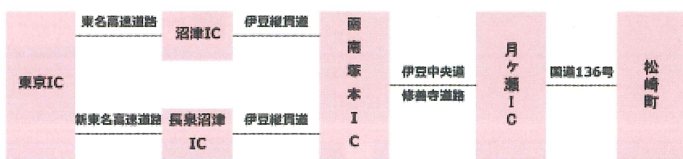
建物の壁面に平瓦を貼り、めじ、と呼ばれる継ぎ目に漆喰をかまぼこ型に盛り上げて塗り、その形が海にいる「なまこ」に似ていることからなまこ壁といわれ、防火、保温、防湿に優れています。

町内には、現在、江戸時代に建てられた旧依田邸をはじめ明治中期から昭和初期に建てられた母屋や蔵など190棟余りが残っています。なまこ壁の形は、平瓦を斜めに格子状に貼った四半目地仕上げで、縞なまこ貼りが特徴的です。

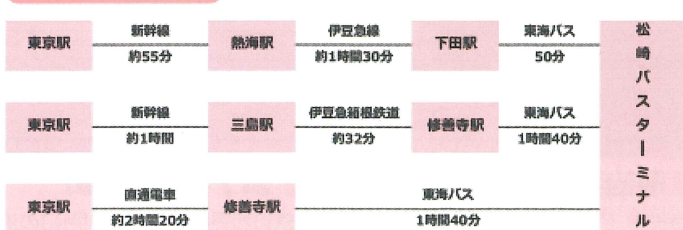
松崎町では、左官技術の継承、町並み整備を図るため1994年から「なまこ壁技術伝承事業」として伊豆の長八美術館周辺地域のなまこ壁を整備しています。

車の場合

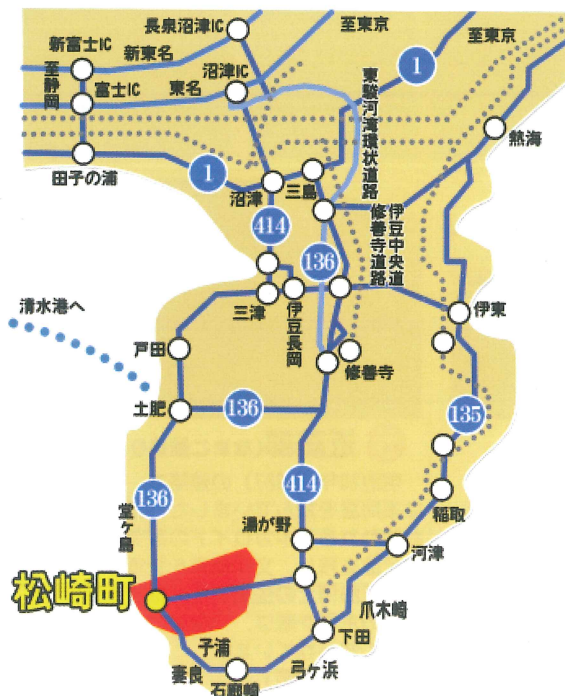
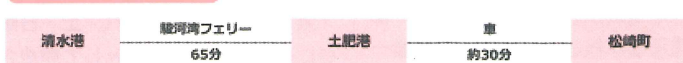
東名高速東京ICより約3時間30分 / 東名高速沼津ICより約1時間40分



電車・バスの場合



フェリー・車の場合



左官の神様といわれる松崎町出身の名工「伊豆の長八」の顕彰イベントとして「フェスタ長八2023」を開催します。長八や鍍絵、なまこ壁などを学び、楽しんでプログラムが満載です。

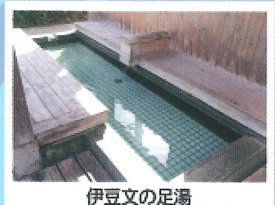
フェスタ長八

2023年10月22日(日) 雨天中止

2023

プログラム

- ◆ 長八追悼法要
 - ・ 9:30 ~ 浄感寺
- ◆ お抹茶サービス
 - ・ 10:00 ~ 14:00 東区会所 先着 100名
- ◆ 光る泥団子制作体験
 - ・ 10:00 ~ 12:30 ~ 観光協会横
 - 参加費 / 500円 (各回 15名・先着順)
- ◆ フェスタ長八記念演奏会 (4団体)
 - ・ 10:30 ~ 丸高広場 (観光協会前)
 - 1. おたまじゃくしの会演奏
 - 2. ソプラノ歌手たえこさん歌
 - 3. 長八小唄
 - 4. 松崎高校吹奏楽部演奏
- ◆ 漆喰壁・なまこ壁塗り体験
 - ・ 10:00 ~ 14:00 観光協会横
 - 参加費 / 無料
- ◆ 長八オリジナル缶バッジ制作
 - ・ 10:00 ~ 14:00 伊豆の長八美術館前
 - 参加費 / 無料 先着 100名 (子供優先)
- ◆ 長八作品に影響を与えた中国文化講演
 - ・ 10/21 (土) 19:00 ~ 10/22 (日) 14:00 ~ 伊豆の長八美術館
 - 入場料 / 無料 講師: 近藤二郎氏 (伊豆長八作品保存会会長)
- ◆ 長八スタンプラリー
 - ・ 10:00 ~ 14:00 観光協会スタート・ゴール
- ◆ 第23回全国漆喰コンクール入賞作品展
 - ・ 10/7 (土) ~ 11/19 (日) 9:00 ~ 17:00 伊豆の長八美術館
 - 入館料 / 大人 500円 ※ 10/22 (日) は無料
- ◆ うまいもん市
 - ・ 10:00 ~ 14:00 仲宿通り・丸高広場
- ◆ 伊豆の長八美術館ナイトミュージアム
 - ・ 10/21 (土) 19:00 ~ 21:00 伊豆の長八美術館
 - 入館料 / 無料
- ◆ 松崎まちかど花飾り
 - ・ 10/21 (土) ~ 11/12 (日) 仲宿通りほか
- ◆ 松崎まち灯り
 - ・ 10/21 (土) ~ 10/29 (日) 18:00 ~ 21:00 仲宿通りほか



明治13年(1880)に建てられ、国の重要文化財に指定されている学校。なまこ壁やバルコニーなどの擬洋風建築が特徴で、2階の客室欄間の「千羽鶴」は、長八の傑作です。【開館9時～17時/年中無休/大人300円・中学生以下無料】



元禄時代(今から300年前)に建てられた名主の屋敷で県の文化財に指定されています。明治期に、依田佐二平は製糸業を中心に殖産事業を行うとともに、国会議員として地域に尽くしました。弟の勉三は、北海道十勝開拓の先駆者として知られています。



① 伊豆の長八美術館
名工「伊豆の長八」の絵巻50点を展示する日本随一の漆喰芸術の美術館。左官技術の粋を集めた建物で、設計者の石山修武氏は、建築界の芥川賞と言われる「吉田五十八賞」を受賞しています。【開館9時～17時/年中無休/大人500円・中学生以下無料】



② 長八記念館(浄感寺)
鎌倉時代に創建された浄土真宗のお寺で、長八は幼少期に十三世本多正親上人のもとで学問を学びました。本堂の「雲龍」と「飛天の像一対」は、県の文化財に指定されています。また、幕末の堂宮彫刻の名工石田半兵衛の作品も見事です。【開館9時～15時/不定休/大人500円・中学生以下無料】



③ 伊那下神社
彦火々出見命、住吉大神の2柱を祀る神社で、国宝の「松藤双鶴鏡」や長八の「神功皇后像」、「応神天皇と竹内宿禰像」、山岡鉄舟の書を長八が漆喰で仕上げた大額、県指定天然記念物「大公孫樹」(樹齢約1000年)などがあります。



④ 伊豆文邸
明治43年(1910)の建築で、かつては呉服商を営んでいました。現在は、無料休憩所として地域のボランティアが管理し、雛人形や武者飾りなど、季節に応じた展示が行われます。建物の外部には、龍、雁、牡丹などの絵が見られます。【開館9時～16時/不定休/無料】



⑤ 近藤邸(なまこ壁通り)
明治20年(1887)の建築で、かつては薬問屋を営んでいました。鎮痛剤にも使われるアルカロイドの研究に大きな足跡を残し、文化勲章を受章した近藤平三郎博士の生家です。なまこ壁仕上げの主屋や蔵は、「なまこ壁通り」として知られています。【外部のみ公開】



⑥ 明治商家 中瀬邸
明治20年(1887)の建築で、かつては呉服商を営んでいました。太い柱や梁、贅沢な素材や細工をはじめ当時を偲ばせる道具が展示されています。また、黒漆喰が施された蔵は、町内唯一です。【開館時間9時～17時/年中無休/無料】



⑦ 浜丁(旧依田四郎邸)
旧依田四郎邸は、那賀川河口の浜丁橋のたもとにあるなまこ壁の蔵を有する古民家で、現在、地域交流館「浜丁」として活用され、土・日曜日にはカフェ、資料館として開放されています。【開館10時～16時】